

コロンビア経済情勢（９月）

９月のコロンビア経済概況は以下のとおり。

【ポイント】

- キンテロ商工観光次官、アルゼンチン、ブラジル、メキシコとのＦＴＡ再検討について発言。（７日）
- モヒカ農業地方開発大臣の訪中（２０日）、コロンビア産牛肉の対中輸出許可。（２２日）
- コロンビア中銀金融政策決定会合開催、政策金利１３．２５％で据置き。（２９日）

【本文】

１ 主な出来事

〈国内情勢〉

（１）金融政策・物価・雇用関連

ア ８月インフレ率（年率）１１．４３％（「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、「エル・エスペクタドル」紙、８日）

ＤＡＮＥによれば、８月のインフレ率は年率で１１．４３％、月間インフレ率は０．７０％であった。このうち、食料品・飲料の増加（１．１３％）が最も高く、宿泊、水道、電気、ガス、燃料で０．６１％増となった。

イ インフレ率の遅い低下が利下げにブレーキをかける（「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、９日）

コロンビア中銀及びシンクタンク Fedesarrollo が実施した経済アナリストへのアンケート調査によれば、国家統計局（ＤＡＮＥ）の発表したインフレ率が８月の期待インフレ率よりも高かったため、利下げまでの期間が長期化するとの見方が依然として多い。ボニジャ財務公債大臣は、インフレ率の低下が５か月連続しており、「財務省は年末に９．２％になると予測しており、（利下げの）諸条件は整う。」との考えを示した。

ウ コロンビア中銀、政策金利を据置く（「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、２９日）

２９日、コロンビア中銀金融政策決定会合が開催され、３％のインフレ目標に達していないことから、政策金利は１３．２５％で据え置かれた。ボニジャ財務公債大臣は、「インフレが我々の望む速さで低下していない。政府が燃料価格の調整を行わなければならないからだ。」と発言。

エ 8月失業率は9.3%（「ラ・レプブリカ」紙、「ポルタフォリオ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、「エル・エスペクタドル」紙、29日）

29日、DANEの発表によれば、8月の失業率は9.3%であった。なお、7月の失業率は9.6%。他方、雇用の伸びが大きかったのは、牧畜・農業・狩猟で14.3%、公的機関12.8%、製造業10.6%（いずれも伸び率）であった。

（2）財政関連

財務公債大臣、IMFからの融資は受けるべきではないと発言（「ポルタフォリオ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、6日）

ボニージャ財務公債大臣は、2024年国家予算案の債務償還費が予算総額の60%相当（ママ）となっていると説明、コロンビアがこれ以上IMFからの融資を受けるべきではないと発言した。2024年国家予算案の総額は502.6兆ペソ（17.7兆円相当）。同大臣は、債務償還費が2023年は76兆ペソ、2024年は105兆ペソとなっている旨説明した。

（3）鉱業エネルギー関連

ア ガソリン補助金

（ア）タクシー業者向けガソリン補助金の適用（「エル・エスペクタドル」紙、1日）

1日、エンリケス運輸次官は、2日に引き上げられるガソリン価格に関し、タクシー業者に割引価格を適用する補助金の準備が進められていると発言。

（イ）タクシー業者への補助金、年末までに743億ペソ（「ラ・レプブリカ」紙、20日）

全国金融機関協会（ANIF）は、政府がタクシー業者に支給するガソリン補助金が年末までに743億ペソ超となる旨発表した。ANIFによれば、ガソリンを利用するタクシー業者は全国で19万3,947台あり、1台あたり月額9万ペソが補助金として支給されるとの想定で算出された。

イ 電気自動車キャラバン（「ポルタフォリオ」紙、5日）

4日、アンデス電気自動車ルート（Ruta Eléctrica Andina）の出発式がボゴタ市のセントラル大学にて開催された。これは、ラ米持続可能な移動協会（ALAMOS）の主催によりコロンビア、エクアドル、ペルーを電気自動車で縦断するもの。ALAMOSは、コロンビアで200kmごとに急速充電・準急速充電器が設置され、電気自動車で走行するドライバーの懸念は払拭されたと説明した。

ウ プロミガス、Fedesarrollo、天然ガス代替費用が112兆ペソと試算（「ラ・レプブリカ」紙、5日）

ロハス・プロミガス社長は、シンクタンク Fedesarrollo との国内天然ガスに関するレポートを発表した。同レポートでは、2つのシナリオを提案しており、1つは天然ガスの採掘を止め、天然ガス輸入インフラを整備せず、代替として風力発電を推進した場合、今後3年間で112兆ペソを超える費用が生じる。2つ目のシナリオは、天然ガスの採掘を止めるものの、輸入のためのインフラを拡充すれば、5.14兆ペソの費用となる。

エ 埋蔵量の増加により原油の可採年数は引き続き7.5年を維持（「エル・ヌエボシグロ」紙、6日）

コロンビアの原油・天然ガスの埋蔵量は、埋蔵量の増加により現時点では平均7.5年の可採年数で安定している。サモラ・モンポス石油（米カリフォルニア州）社長は、炭化水素庁（ANH）の報告によれば、国内埋蔵量の平均回復率は約17%ではあるものの、生産の効率化を進めるための技術及び投資の推進のためのインセンティブとはなっていない、と述べた。

オ 政府、洋上風力発電第1回入札を延期（「ラ・レプブリカ」紙、6日）

鉱業エネルギー省は、コロンビア史上初となる洋上風力発電の第1回入札の延期を発表した。ベレス前鉱業エネルギー大臣が本年8月に入札を行う旨発表していたが、5日の同省HPによれば、入札関連文書作成のため、他省庁との協議を引き続き行うためとのこと。入札実施時期については発表されていない。

カ 鉱業エネルギー省、エネルギー移行に向けた国際連携を強化（「ラ・レプブリカ」紙、8日）

8日、鉱業エネルギー省は、エネルギー移行強化のための国際戦略を見直した。カマチョ鉱業エネルギー大臣は、ホッジソン当地英国大使と、コロンビアでのスマートグリッド技術の導入に関する英国の支援について議論。また、気候変動及び自然保護・生物多様性のための活動に関する二国間協力についても話し合われた。また、同大臣は、メロニオ仏開発庁（AFD）イノベーション・戦略・研究部長と会合、水素分野での技術協力について話し合うとともに、バートランド当地EU大使とも会合し、持続可能なモビリティのためのインフラ、エネルギー効率等の推進に向けた政策について議論した。

キ 政府、エコペトル社を洋上風力発電の共同経営に義務づけ検討（「ラ・レプブリカ」紙、11日）

ロイター社は、コロンビア政府が洋上風力発電プロジェクトでエコペトル社を共同経営に入れることを義務づける法整備の検討を行っていると報じた。鉱業エネルギー省は、上記について第1回入札に関心を示す企業に打診しており、回答は前向きなものであるとのこと。なお、政府はエコペトル社株式の約88.5%を保有している。

ク エコペトル社、天然ガスをエネルギー移行の軸に据える（「ラ・レプブリカ」紙、「エル・エスペクタドール」紙、１１日）

１１日、エコペトル社は、株式上場１５周年を記念してニューヨーク証券市場で鐘を鳴らした。ロア同社社長は、２０４０年までの同社の戦略について、「クリーンエネルギーは、天然ガスのようにエネルギーの安定供給に寄与しない。」と発言、風力及び太陽光発電を重視する一方で、カリブ海沿岸で開発する天然ガスがエネルギー移行における燃料となるとの考えを明らかにした。

ケ 海岸部地方の電気料金（「エル・ヌエボシグロ」紙、１３日）

海岸部地方の電力不足に関し、発電会社の資金不足、計画停電、電気料金の増加等の課題について、カマチョ鉱業エネルギー大臣は、一連の対策を講じる旨述べた。同大臣によれば、電力供給の安定及び売電会社の資本増強のための融資が選択肢の一つ。このために国内開発銀行（Findeter）を通じた融資が検討されている。必要となる融資額は１兆ペソ（約２．５億米ドル）で、カマチョ大臣は、「電気料金がこのまま上昇することは許されない。電力市場のコスト増が消費者の負担とならないよう対策を講じる。」と述べた。

コ エコペトル社とグラン・ティエラ・エナジー社、生産契約を延長（「エル・ヌエボシグロ」紙、「エル・エスペクタドール」紙、２０日）

エコペトル社とグラン・ティエラ・エナジー社は、プトゥマヨ県プエルト・アシス市に位置する鉱区の原油生産契約を２０年延長することに合意した。両社は、２０１９年３月から操業しているが、引き続きエコペトル社が５２％、「グ」社が４８％の出資で今後も操業する。「グ」社は、今後３年間で１億２，３００万ドルの投資を行い、１，０００万バレル超の潜在埋蔵量を有する同鉱区での長期生産を目指す。

（４）インフラ関連

ア 日本、２０２４年 ANDICOM ゲスト国へ（「ポルタフォリオ」紙、７日）

マルチネス情報通信技術研究開発センター（CINTEL）所長は、日本がＩＣＴ国際会議 ANDICOM ２０２４ゲスト国になると発表した。高杉大使は、日本への招待に謝意を示すとともに、日本がラ米地域でのデジタル・トランスフォーメーションを加速させるための支援に関心を示していると述べた。

イ ボゴタ・メトロ１号線・２号線関連

（ア）ボゴタ・メトロ２号線入札（「ラ・レプブリカ」紙、７日）

ボゴタ・メトロ公社は、入札に関心を有する４つの企業グループから提出された書類を基に評価を行い、いずれも問題なく、メトロ建設の入札資格があると発表した。また、ロペス・ボゴタ市長は９月２９日に正式な入札を行う旨明らかにした。

(イ) ボゴタ・メトロ1号線工事変更は12.5兆ペソの追加費用（「ラ・レプブリカ」紙、13日）

ナルバエス・ボゴタ・メトロ公社社長は、会計検査院主催の公共財保護に関するフォーラムで、ボゴタ・メトロ1号線建設の詳細について説明、同建設プロジェクト変更で完工は6年遅れ、12.5兆ペソの追加費用が生じると発言した。また、「1号線は全長24km、高架式で、16の駅を有する。トランスミレニオ（バス路線）及びレジオトラム（郊外鉄道）と共に交通網として統合される。」と述べた。

また、2号線建設プロジェクトについては、「全長15.5km、11の駅を有し、うち10駅は地下化される。」と述べ、2024年2月に入札、2025年初に建設が開始される見込みであると付け加えた。さらに、3号線建設プロジェクトについては、F/S調査のコンサルタント契約のプロセスにあると説明した。

(ウ) ボゴタ・メトロ1号線建設工事の進捗（「ラ・レプブリカ」紙、21日）

ボゴタ・メトロ公社（EMB）は、メトロ1号線高架の基礎杭打設を開始したと発表した。基礎杭は、全長15m、直径1m、重量は16トンで、ボゴタ市郊外のボサ地区作業場で製造され、各打設現場まで運搬される。

ウ 政府、第5世代（5G）プロジェクトで18件の工事を予定（「ポルタフォリオ」紙、12日）

官民連携（APP）モデルが強化されている。政府は現在18件のプロジェクトを進めており、内訳は、空港6件、水運1件、道路8件、鉄道3件で、国家インフラ庁（ANI）によれば、6空港の拡充は4年間で25兆ペソ（約9,200億円）の投資となる。

エ 国内港湾での貨物動向（2023年上半期）（「ラ・レプブリカ」紙、19日）

18日、運輸監督庁は国内港湾での貨物動向に関する統計（2023年1～6月）を発表した。同統計によれば、同期間の貨物総量は8,510万トン。カリブ海沿岸からの貨物が7,340万トン、太平洋沿岸からは1,020万トンであった。トゥマコ港（ナリニョ県）の貨物量は前年同期比70.2%増の15.3万トンと、2023年上半期に貨物量が増加した港湾では最大の伸びであったが、絶対量ではカルタヘナ港の160万トン（7.5%増）が最大。

(5) その他

ア 2023年のコロンビア経済成長、他のラ米諸国よりも低くなる（「ポルタフォリオ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、5日）

5日、国連ラ米カリブ経済委員会（ECLAC）は、2023年の域内のGDP成長率を本年4月に予測した1.2%から1.7%に上方修正した。域内で2023年の経済成長率が高いのは、パナマ（3.7%）、パラグアイ（4.2%）、コ

スタリカ（３．８％）、ドミ共（３．７％）等となっている。なお、コロンビアの予測成長率は１．２％であった。

イ 上半期の観光外貨収入２９％増（「ラ・レプブリカ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、７日）

７日、コロンビア旅行代理・観光業協会（ANATO）は、２０２３年上半期の観光外貨収入が前年同期比２９％増の４１億２，０００万ドルであったと発表した。また、ANATOによれば、同数値は上半期サービス輸出の５７％にあたる。一方、観光客１人あたりの平均支出は１，４２３ドルで、昨年比４％減となった。ウ ７月海外送金、前年同月比１４．４％減の７億６，１６１万ドル（「ラ・レプブリカ」紙、７日）

コロンビア中銀によれば、本年の海外送金は１～４月まで増加傾向にあったが、６～７月は減少傾向となっている。５月の海外送金は前年同月比４．２％の８億７，７１８万ドル、６月は同４．６％減の７億８，３４８万ドル、７月は同１４．３７％減の７億６，１６１万ドルとなった。

エ 国内零細企業、９．６％増（「ポルタフォリオ」紙、１６日）

９人以下の社員で構成される零細企業の２０２３年下半期の企業数は、前年同期比で９．６％増、同社員数も４．２％増となった。

オ FNCのリストラ（「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、１７日）

コロンビア・コーヒー生産者連盟（FNC）は、FNC本部の幹部職６ポストを廃止し、これにより経費２０％の削減となる旨発表した。FNCは、組織を効率化し、コーヒー生産者へのサービス向上に努めるとしている。バアモンFNC会長は、国内農業組織の指導的立場として、会長選での公約にも掲げていたものであり、緊縮と持続可能性の必要を説いた。

カ ８月住宅販売、前年比５２％減（「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、１８日）

コロンビア建設会議所（CAMACOL）は、８月の住宅販売件数が前年比５２％減の８，６９９件であったと発表した。大幅な減少が見られたのは公益住宅（VIS）販売件数で、２０２２年８月の１万３，０３７件から２０２３年８月の５，６１３件と５７％減になった。

〈対外経済関係〉

（１）通商関連

ア 輸出入統計関連

（ア）７月輸出、３０．８％減（「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、「エル・エスペクタドル」紙、５日）

DANEによれば、7月の輸出額は前年同月比30.8%減の40億9,480万ドル(FOB)となった。主な減少理由は、燃料及び採掘産業関連製品の輸出減(43.3%減)によるもの。なお、燃料及び採掘産業関連製品の輸出は輸出総額の51.7%を占める。

(イ) 7月輸入、28.2%減(「ポルタフォリオ」紙、「ラ・レプブリカ」紙、「エル・ヌエボシグロ」紙、20日)

DANEによれば、7月の輸入額は前年同月比26.8%減の49億4,520万ドルとなった。主な減少理由は、食料飲料(14.2%減)、石油製品(10.1%減)等の輸入減によるもの。

イ 政府、アルゼンチン、ブラジル、メキシコとのFTAを再検討(「ラ・レプブリカ」紙、7日)

7日、キンテロ商工観光次官は、コロンビア貿易協会(ANALDEX)年次総会に出席し、アルゼンチン、ブラジル、メキシコとのFTAを再検討すると述べた。同次官は、これらの再検討が均衡と公正な通商の可能性を求めて通商政策の枠組内で行われると説明した。DANEによれば、2023年上半期の対ブラジル貿易赤字は11億6,320万ドルとなっている。

ウ 中国関連

(ア) 農業地方開発大臣の訪中(「ポルタフォリオ」紙、20日)

モヒカ農業地方開発大臣は、中国との通商関係強化のため、陝西省咸陽市で開催された「グローバル・ソイル・ヘルス・フォーラム2023」等、中国での一連の行事に出席した。同フォーラムでは、国内外の政府、学術、企業関係者が出席、気候変動の土壌への影響等について議論された。

(イ) コロンビア産牛肉の対中輸出、検疫許可が承認される(「エル・エスペクタドル」紙、22日)

中国は、コロンビア産牛肉の輸入に関し、検疫許可を承認した。モヒカ農業地方開発大臣は、中国が世界最大の冷凍牛肉輸入国であり、中国市場は国内市場との価格差(中国では17.88ドル/kg、コロンビアでは9.68ドル/kg)や、2030年には1人あたりの牛肉の消費量が10kgとなるとみられており魅力的であると述べた。

(ウ) コロンビア、中国に牛肉5万トンを輸出(「ポルタフォリオ」紙、27日)

中国がコロンビア産牛肉の輸入を許可したことにより、約3億ドルの牛肉の輸出が見込まれる。農業地方開発省によれば、この輸入許可により、少なくとも国内牧畜業者、約30万世帯が裨益する。

(エ) ペトロ大統領、10月25日に習近平国家主席と会談(「エル・ティエンポ」紙、29日)

ペトロ大統領が習近平国家主席と会談し、中国のコンソーシアムが建設するボゴタ・メトロ1号線について話し合う予定。ペトロ大統領は10月25日に訪中し、鉄道、電気自動車等の交通機関の導入についての助言や対中輸出の拡大について期待を示した。

（２）国際協力関連

ア 公的開発銀行会合（４～６日）

４～６日、カルタヘナ市で公的開発銀行会合(Finance in Common)が開催された。同会合は、米州開発銀行（ＩＤＢ）、ラ米開発金融機関協会（ＡＬＩＤＥ）、ラ米開発銀行（ＣＡＦ）、カリブ開発銀行（ＣＤＢ）等が共催した。同会合に出席したペトロ大統領は、高金利によって債務償還能力が減退している点や、気候変動のために世界的に取り組む必要等を訴えた。

イ 米国際開発金融公社、コロンビアにさらなる融資（「ラ・レプブリカ」紙、２１日）

米国際開発金融公社（ＤＦＣ）は、対コロンビア資金協力を増加する。ムリジョ駐米コロンビア大使が米国商業会議所（AMCHAM）の会合で発言した。また、同大使は、経済繁栄のための米州パートナーシップ（ＡＰＥＰ）を推進するため、首脳会議が開催されることも明らかにした。

経済活動指標	2022/07	2023/05	2023/06	2023/07
国内総生産(四半期)(DANE): %	7.8	0.3	0.3	-
経済活動指数(DANE): %	6.9	0.6	1.7	-
経済活動指数第1次産業(DANE): %	0.5	1.3	3.3	-
経済活動指数第2次産業(DANE): %	7.8	0.6	-4.3	-
経済活動指数第3次産業(DANE): %	7.7	0.6	3.1	-
エネルギー需要(XM): GWh	6,565	6,845	6,582	6,764
エネルギー需要ー前年同月比(XM): %	3.4	4.0	6.0	4.4
雇用				
全国平均失業率(DANE): %	11.0	10.5	9.3	9.6
主要13都市失業率(DANE): %	11.3	11.2	8.8	9.8
消費				
消費者信頼感指数(FEDESARROLLO): %	-10.4	-22.8	-14.1	-17.4
実質小売売上高指数(DANE): %	7.7	-5.1	-11.9	-8.2
自動車販売台数(単月)(ANDEMOS): 台	23,258	15,695	14,435	13,146
自動車販売台数(年内累計)(ANDEMOS): 台	147,107	76,434	90,869	104,015
物価				
消費者物価上昇率ー前月比(DANE): %	0.81	0.43	0.30	0.50
消費者物価上昇率ー前年同月比(DANE): %	10.21	12.36	12.13	11.78
生産者物価上昇率ー前月比(DANE): %	2.60	-1.73	-2.71	-0.74
ガソリン価格(ボゴタ)(鉱山省): ペソ/ガロン	9,523	12,173	12,773	13,373
生産				
実質工業生産指数(DANE): %	5.2	-3.4	-4.8	-7.2
実質工業売上高指数(DANE): %	3.5	-2.2	-5.3	-6.0
新規建設着工承認面積(DANE): m ²	3,904,226	2,187,298	1,674,876	1,354,532
コーヒー生産量(FNC): 千袋(60Kg)	944	806	956	947
コーヒー生産量ー前年同月比: %	-21.9	30.9	-9.1	-21.7
コーヒー価格(IOC)/ 11月から "SUAVE": USD	286.99	229.08	215.44	190.33
石油生産量(日量)(鉱山省): バレル	748,224	773,789	777,446	781,965
石油生産量ー前年同月比(鉱山省): %	2.3	10.0	12.0	6.9
石油生産量(日量・年内平均)(鉱山省): バレル	747,718	772,303	773,160	774,418
石油価格WTI: USD / バレル	101.62	71.58	70.25	76.07
金融				
政策金利(中央銀行): %	7.50	13.25	13.25	13.25
為替 月初(中央銀行): COP	4,151.21	4,669.00	4,434.09	4,177.58
為替 月末(中央銀行): COP	4,300.30	4,408.65	4,191.28	3,923.49
為替 最高値(中央銀行): COP	4,627.46	4,713.08	4,434.09	4,195.93
為替 最安値(中央銀行): COP	4,151.21	4,408.65	4,114.39	3,923.49
株式指数 月初(中央銀行): COP	1,357.98	1,157.99	1,117.93	1,134.27
株式指数 月末(中央銀行): COP	1,295.96	1,099.03	1,133.60	1,174.70
株式指数 最高値(中央銀行): COP	1,357.98	1,164.18	1,199.68	1,174.70
株式指数 最安値(中央銀行): COP	1,259.80	1,092.64	1,117.93	1,115.02
貿易				
貿易収支(FOB)(DANE): 百万米ドル	-494	-599	-731	-561
輸出額(FOB)(DANE): 百万米ドル	5,914	4,531	3,986	4,095
輸出額(FOB)ー前年同月比(DANE): %	71.7	46.3	25.3	18.9
輸出額(FOB)年内累計(DANE): 百万米ドル	34,388	20,630	24,616	28,711
輸入額(CIF)(DANE): 百万米ドル	6,891	5,419	5,015	4,945
輸入額(CIF)ー前年同月比(DANE): %	43.5	23.9	1.9	3.0
輸入額(CIF)年内累計(DANE): 百万米ドル	45,397	26,806	31,821	36,766
労働者送金(中央銀行): 百万米ドル	889	877	783	762